

後継者が育つ

明るい家庭づくり

○農家のくらしを考える会○

健康で明るい家庭づくり、村づくりを——と、第八回南国、香南地区農家のくらしを考える会が、一月十三日、市社会福祉センターで開かれ、農家の主婦ら約二百五十人が参加しました。

これは、意見発表と討議を通して農業や農村地域の良さを見直し、後継者の育つ環境をつくらうと、南国農業改良普及所や市農業委員後継者が育つ明るい家庭

第8回農家のくらしを考える会



健康で生産をあげる
八人が登壇して意見を発表した

会などが主催して毎年開いているものです。

午前中は四組の夫婦（市内からは篠原の潤田寿作、るり子夫妻、浜改田の西村誠二、茂子夫妻）が意見発表。次のような意見が出されました。

●作ったものに自分たちで全く値段がつけれないのはおかしい。農業は全国的にもすこい組織がある。その中でやれば何とかできるのではない。

●跡取りの嫁は毎日親と顔を合わせているが、弟嫁、兄嫁はちよつと手土産を持って来ればいい嫁ということになる。

●自然相手の仕事のはずなのに農薬をすいぶん使っている。

●世の中はすべてバランスを取り合って進んでいる。家庭では夫婦が気遣いながらバランスを取り合っているが、兄弟嫁はちよつと手土産を持って来ればいい嫁ということになる。

●全部が偏食のない明るい家庭なら、地域も楽しくなるのではない。

●生活面でも仕事面でも親子が互いに干渉しないようにしている。そうすれば嫁と姑の関係もうまくいくのではない。

●空いた時間に手伝って、忙しいときに手伝ってもらおうというように、時間の貯金はできないだろうか。

●農家の子どもたちはかきつ子と同じなので夕食の後の時間は少しでも接するようにしている。

●自分の息子は、農家に行きたいというお嫁さんが来るような子どもに育てていきたい。

午後は、「農家のくらしを考える」というテーマで、午前中の意見発表の中から幾つか問題を絞り、パネル討議を行いました。県農業改良普及協会の広見紀事務局長の司会で、次のようなことについて話し合いました。

●生産者が農産物にどうして値段をつけれないのか

●機械銀行について

●暮らしの中のバランス

●嫁と姑、役割分担の問題

●農家の子育て、教育、後継者の育成について

●後継者への上手なバトンタッチ

●非農家から嫁を迎える場合

郷土の歴史を探る 久礼田地区史談会が発足



澤村会長の研究発表も行われた

久礼田地区史談会発会式が一月十日、久礼田体育館で会員約五十人が参加して開かれました。

久礼田地区は、久礼田城跡や植田土居城などの史跡があり、古代に国府が置かれた比江にも近く、土佐一条家とも深いかかわりのあるところ。久礼田地区史談会は、主としてこの久礼田地区の歴史、地理、伝説、民話等について調査、研究し、その成果を発表するなど、その活動を通して郷土文化の発展向上に寄与する目的で発足。会員は現在六十六人です。

総会では、経過報告、会長選出、会則決定、事業計画の承認などが

行われ、会長には発起人の一人である澤村明夫氏が選ばれました。続いて、発会を記念して澤村会長が「土佐一条家と久礼田」と題して研究発表。その後、発会と祝賀会が行われました。

史談会では、今後南国史談会とも連絡を取り合いながら、調査、研究、資料の収集、機関紙の発行などの活動をしていく予定で、三月下旬には史跡巡りも計画しています。